

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	13-086	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Drinking context-specific associations between intimate partner violence and frequency and volume of alcohol consumption. 親密なパートナーからの暴力とアルコール摂取頻度・量の飲酒状況関係		
執筆者		
Mair C, Cunradi CB, Gruenewald PJ, Todd M, Remer L.		
掲載誌		
Addiction. 2013 Dec;108(12):2102-11. doi: 10.1111/add.12322.		
キーワード		PMID
アルコール、飲酒状況、親密なパートナーからの暴力(IPV)		24112796
要 旨		
<p>目的： 様々な場所での飲酒の2つの面(過去1年の各場所での飲酒頻度と飲酒量)を定量化し、この指標と親密なパートナーからの暴力(IPV)の関係を評価することを目的とする。</p> <p>方法： 米国カリフォルニア州の50の中から大都市に居住し結婚あるいは同棲しているカップル(n=1,585カップル)を対象とし、電話インタビューを介して次の横断的調査データを収集した。過去1年の男性から女性あるいは女性から男性へのIPV、飲酒の状況、心理社会的な人口統計学的要因について、各パートナーから情報を得た。IPVと男女の飲酒場所関連について、6つの飲酒場所(レストラン、バー、居酒屋やラウンジ、誰かの家でのパーティ、自宅)での飲酒頻度と各場所での飲酒量をTobit model(上限や下限があるデータの解析に利用する統計手法)を用いて検討した。</p> <p>結果： IPVのリスクは飲酒状況によって異なり、飲酒量が多いこととも関連した。調整モデルでは、男性パートナーの誰かの家でのパーティの飲酒頻度は、男性から女性のIPVのリスクと関連し[β (SE) 0.130 (0.060); p=0.030]、自宅での飲酒頻度は女性から男性のIPVリスクと関連した[β (SE) 0.017 (0.008); p=0.033]。女性パートナーの友人宅での飲酒頻度は、IPVリスクを高めた[β (SE) 0.049 (0.024); p=0.044]。</p> <p>結論： 飲酒する社会的状況はパートナーに対する暴力に影響を与えた。男性の暴力は自宅外の飲酒と関連し、女性の暴力は自宅での飲酒と関連した。</p>		